

パラオには1,400種もの魚たちが暮らしているという。

この数字がいかに桁違いかは、総面積で比較すると825倍もの大きさがあり、

亜寒帯から亜熱帯の気候を持つ日本の魚種が約4,000種ということから容易に想像がつくことだろう。

マンタやサメだけでない、パラオの様々な魚達を、デイドリームパラオにて案内してもらった。

未記載種やミクロネシア固有で和名の無いものなど、楽園パラオの美しい魚たちに迫る。

Photo&Text = Ryo Minemizu Thanks = Day Dream Palau Design = Yoshiko Murata

PALAU Paradise of
1,400
Fishes

マク ロ 限 定 !?
パラオ1,400の魚達に
会いたい。

あのシコンハタテハゼが、なんと水深20m 台でも見られる

パラオといえば緑の帽子を被ったようなロックアイランド、白い砂浜が輝くビーチ、塩水湖に無数のクラゲが暮らす

ということから今回のマクロ限定!?リサーチは始まった。パラオの総面積は日本の群馬県高崎市とほぼ同じ458kmほど

大物や群れだけでは無い、パラオ1,400種に迫る

リーフィッシュレイク、透明度が高くマンタなどの大物ワイドの魅力溢れる場所だ。しかし、デイドリームパラオの遠藤氏によれば、パラオの魅力はそれだけでは無いという、「実はパラオには1,400種もの魚たちがいるんですよ」で、それを是非「オーシャナで紹介したいんです!」

私「今回、大物ワイドは全く無しですか?」
遠藤さん「ワイドはつなぎ程度ならOKですよ」

だ。その中に魚が1,400種いるという事実がどれほど凄いことなのかは、日本と比べてみると容易に想像がついた。しかし、エビカニやその他の海洋生物まで含めれば、いったいどれだけののだろうか? と勝手に妄想を膨らませながら、まずは地形で有名なブルーホールやシアストーンなどの洞窟を探ることになった。

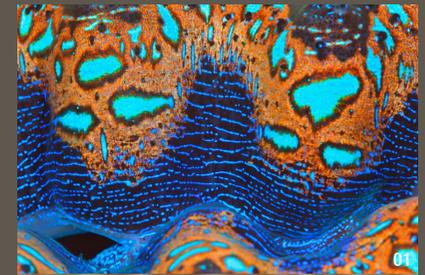
Fishes



サンゴの中に生息しているシロカレイニモシ
手廻シニ種 Jett's
siphon fish (Siphonaria
jettii)



尾ビレの先の黄色い模様が特徴。アオマスキの幼魚



01



02



03



04



05

背景が抜けていて撮りやすいカメアラスビーチのマシユウイシモチ

- 01 まるで浮世絵のような模様がそなたのシャコガイ
- 02 ビックアロップオフでは動きがかわいいスレッドフィンドテーパーに会った
- 03 シアストーンネルの入り口でアオヒサシノアマダイを撮影
- 04 シアストーンネルに行けば確率が高いハイジェスバタフライフッシュ
- 05 ちょっと深いですがあじやうじやいるパリスグナルフィンシュ

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。

PALAU Paradise of
1,400
fishes

洞窟の中、それはまるで宝探し

地形で有名なこれらの場所だが、生物を探するためにライトを携帯して潜ってみる

と、実はライトで照らさないと気づかない隠蔽性の種類が多いことに気付く。太陽光の届かない暗がりに潜むサクラテンジクダイやシマクダリボウズギスモドキなどのテンジクダイの仲間、パラオならではのハナスズキ属の1種でレッドストライプバスレットというのもある。また、こういった洞窟の中を特に好むベニハゼ類がいる。体長1～2cmほどのこの小さなハゼ達は、壁の窪

みのさらに小さな穴の入り口付近に鎮座しているが、ときおり顔を採る時だけひょいっとワープすることがある。写真的にはその瞬間が狙い目のだが、警戒心が強く素早いハゼなので、そうやすやすとは撮らせてくれない。個性的で色鮮やかな柄をなんとか写真に収めようと、ストレスをかけないようにゆっくりと近づくと、ハゼとの駆け引きについ惹きこまれていく。

ジャイアントピグミーゴビーは洞窟の壁や天井付近の穴などにおり、体長3.5cmほどとベニハゼ類の中でも大型種だ。今のところパラオやセブからしか見つからないが、パラオのブルーホールは広い

穴の中でも複雑に枝分かれしているせいか、ジャイアントピグミーゴビーにとっては生息しやすい環境が整っているようで個体数は多かった。全体的に黄色いが、鱗は蛍光グリーンで縁取られていて、目に入る青と金の線が何ともそそられる。

そして、今年和名がついたばかりのドウクツシマベニハゼは、知る人ぞ知るレアな種類。体に鮮やかな青とオレンジの太い縞模様があり、頭の大部分を占める大きな瞳が特徴的だ。こちらはライトを当ててもほとんど動かないので、警戒心が強いベニハゼのイメージとは違ってかなり撮りやすかった。

- 01 日の当たらない洞窟の奥に見られるサクラテンジクダイ
- 02 こちらも洞窟様のシマクダリボウズギスモドキ
- 03 今年3月に和名がついたばかりのドウクツシマベニハゼ
- 04 パラオのブルーホール的人气種レッドストライプバスレット
- 05 小さなベニハゼが多い中、こちらは超巨大で4cmほどになる



洞窟の壁を丹念に探していくといういろいろな発見が

地形が有名なブルーホールだが、実はマクロも充実している

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.daydream.to/palau>

関連情報HPへ



01 リーフのサンゴの上などにおいて比較的撮りやすいキャンディーケイందワフ「カラー」
 02 個体数の多いスナライフヘッドワフ「カラー」
 03 アオハニのすぐ側にいたフルハートドワフ「カラー」
 04 個性的な斑紋が特徴のフルスアイヒゲワフ「カラー」
 05 リーフの上の隙間において、通称アオハニと呼ばれる魚 Trimma melanurus



ハゼ好きも唸らせるラインナップ

リーフのくぼみやサンゴの隙間などにいるベニハゼ類やシマイソハゼ類も、洞窟棲の種類にも負けず劣らずド派手な模様で個性的だ。たいていカメラが入りにくいような狭い隙間の奥にいることから、ストロボをカメラから外して岩の隙間に置いたり、ほとんどありえないような姿勢でファインダーを覗かなければならなかったりして、一

筋縄では撮れない事が多い。しかし、実はそんな風に簡単ではない事が返って写真魂に火をつけたりするのだ。

ボートに上がってから画像をチェックしてみると、苦労して撮ったハゼの姿に「ヒレ全開」「あくびの瞬間逃した～」などと一喜一憂するのだった。



ボート上ではガイドさんと見た魚の話で盛り上がる

紅 Red



とくに神経質なハニハゼ系はじっくりと粘って撮りたい

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。

もう一つは、パラオではあまり紹介されてこなかった泥場。ヘルメットレックやゴビ

泥場に熱視線！ハゼ尽くしダイブ

バラ、マングローブなどの内湾や河口付近、そしてちょっと深場まで、実はパラオには泥場も充実している。

今回、パラオではあまり見つかっていないナカモイロワケハゼを見ることができ、そしてその近縁種のSPまでダブルゲット！日本に分布していないラグーンシュリンプゴビーやピンクスペックルドシュリンプゴビー、モエギSPなどなど挙げればきりがなしほど盛り沢山な出会いだった。ただ、環境は泥場なので、着底する際にはなるべく泥を巻き上げないように気を配ることも重要。満足いくまでじっと海底に留まっていると、泥ハゼ達のその意外な美しさに魅了されていくのだ。



ど派手な黄色と青の模様が特徴のゴールドバーシュリンプゴビー



体長25cmはあるだろうが、大きなマウドウダテハゼ

PALAU Paradise of
1,400
fishes.

パラオではまだほとんど見つかっていないナカモイロワケハゼを見てもう一つ



01



02



03



04



05



06



07



一見地味な感じのラグーンシュリンプゴビーだが、メタリックな横筋模様こそそれ

- 01 泥場にいる、尾ビレが矢尻型なのが特徴のヤツシロSP
- 02 泥場では定番と言ってもいいシマオリハゼもいる
- 03 じつくり粘ってアクリルを激写。カスリSP
- 04 よく出くると、ピンの中に入っていたナカモイロ
- 05 黒いボディーに青い星模様が特徴のホシノハラハゼ
- 06 泥場に生息していたモエギSP。泥を巻き上げないようにするのが至難の業
- 07 オイマンハゼに似ているが、これはラグーンシュリンプゴビー

Mud

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。



ドロップオフはハナダイ以外にもカシミチヨウチヨウウオなども群れていて賑やかだ



01

01 コウリンハナダイを撮りに行くの副産物。プセウドアンティアス・エンゲルハーダイの雌。
02 鮮やかなカラーリングが目を引くオオテンハナダイ。
03 深場なので行ける人は限られているが、頭の輪が特徴のコウリンハナダイ。
04 水深20mくらいから見られるスミレナガハナダイ。
05 ソメワケ・ソメワケハナダイは、小さいサイズでついでに撮ろうか迷ってしまうほど。
06 小さな個体ほどかわいらしさが出るハナダイの幼魚。
07 ハナダイのドロップオフでは定番の「フチドリハナダイ」



ピクトロップオフのよんなドロップ環境はハナダイの宝庫だ



個体数は多いのだが、背びれを広げた瞬間を抑えるのはなかなか難しい。

ドロップオフで楽しむ。パステル&カラフル

ブルーコーナー、シアスコーナー、ピクトドロップオフなど、パラオのアウトリーフ

のほとんどはこのドロップオフが占めていると言ってもいい。

垂直の崖はいつも深い青で満たされていて、彩るようにカシミチヨウチヨウウオが乱舞している。サメや回遊魚などもドロップオフの常連客だ。しかし、中でも最も鮮やかな存在は無数に群れるハナダイ達だ。

赤やピンクのパステルカラーは、どんなに深くてもその青に負けずカラフルで、パラオでは浅場からアカネハナゴイやソメワケミナミハナダイ、日本の海には存在しないバートレットアンティアスなどの群れがいて、水深15mくらいまで降りると、今度はオオテンハナゴイやフチドリハナダイ、スミレナガハナダイ、ハナゴンベなどが続いている。簡単には行けないが、コウリンハナダイ狙いで潜ったゲドブスの深場では、今回プセウドアンティアス・エンゲルハーダイの雌に運よく出会うことができた。



02



03



04



05



06



07



ハナダイ探しでは遠藤さんが「ここだよー」とライトで合図してくれる

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。



真上を通り過ぎるマンタ。捕食中だから全然ダイバーを気にしない

マクロだけのはずが……偶然のマンタ

ジャーマンのベラ団地で、周囲の環境を紹介するつもりで持って入ったワイド

だったが、「近くにマンタがいるよ～」とガイドの祥子さんが呼びに来た。つられて向

かってみた先には4匹のマンタが中層を連なって泳いでる！口をあげながら何度も同じ場所を旋廻する捕食中のマンタだ。

こちらを特に気にする様子も無い。周りにはタカサゴやホオスジタルミなども群れていて、一緒になってプランクトンを食べている。一時たりとも同じシーン

は無く、刻一刻と変化する光景に、いつのまにか夢中になってしまった。

結局、浮上ギリギリまで捕食のマンタを堪能したのだった。今回の企画ではワイドは封印だったはずだが……（遠藤さんスマセン！）持って入って良かった。やはり、パラオは大物も凄いと感じる時間だった。

凄 Awesome



ゆっくりとジャーマンチャンネルを抜けていくボート



頭上を見上げるとマンタが口をあげながら舞っていた



俯瞰のマンタは背中の様が見えて綺麗だ

PALAU Paradise of
1,400 fishes

全部で4枚のマンタが何度も旋廻してやってきました

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。

今回のパラオマクロ限定リサーチを振り返って思ったのは、今まで私は東南アジアの各地を約20年に渡って潜り続けてきたにもかかわらず、今回初めて見た魚がかなり多かったことが正直ショックだった。多彩な環境が揃った稀有なパラオの立地条件があるとは言え、まさか一度の取材でここまで初物に出会うとは予想していなかった。マンタをはじめとする大物の集まる海、そんなイメージのあるパラオだが、その裏

には1,400にも及ぶ魚たちの姿がある。

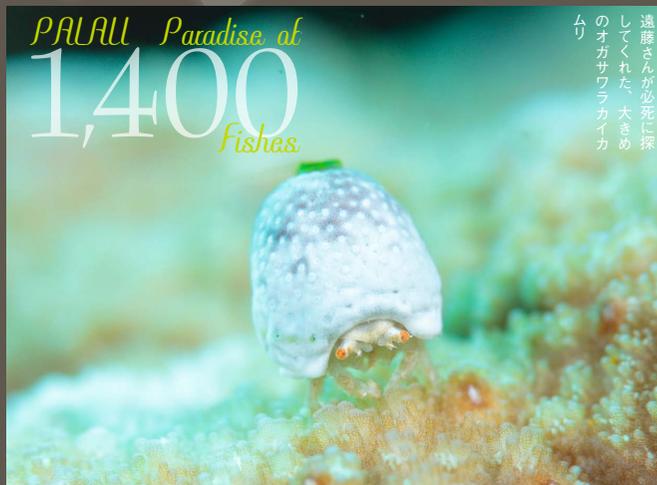
デイドリームで見つけたパラオ

今回はまだその一端にすぎないのかもしれないが、パラオの新たな面を思い知らされた感じだ。そして、そんなパラオの新たな魅力を教えてくれたのは、紛れもなくパラオの海への探究心に止まないデイドリームパラオのスタッフ達であった。

Surprise



パラオならではの天気のもと、ロケアイランドを快走するのは気持ちいい。



PALAU Paradise of 1,400 fishes.

遠藤さんが必死に探してくれた、大きなオガサワラカイカムリ



講習などでも利用されるガルメアウスビーチだが、意外な発見が多い



03



04



05



06



07



01



02

01 ゲトブスの浅瀬ではモンキカエルウオと対面
02 ガルメアウスビーチではホンヒラアジ玉を満喫
03 ここまで小さいのは私も初。オウランヨウソウの幼魚約1cm
04 パラオの代表的なカエルウオ、セクメンランドブレリー

05 スリバチサンゴに奇居するアンピロサンゴヤドリガモ
06 マリンレイクのミンキテクリは時間に関係なく見られるからいい
07 たまにはヤドカリもいなり。綺麗なムラサキゼブラヤドカリ

Day Dream Palau <http://www.daydream.to/palau>



「おはようございま〜す」と朝一番からテンション高く声をかけて気分を盛り上げてくれる、デイドリームパラオのスタッフのその心遣いがうれしい。

ゲストに合わせてベテランから若手まで、すべて日本人ガイドでチーム構成されるのはデイドリームならではの。そして、それを補う

ように気の利いたパラオ人スタッフが私たちのダイビングをフォローしてくれる。

毎日、帰り際のVIP待遇のお見送りは逆にこちらが恐縮してしまうほど丁寧だが、決して悪い気はしない。使ってみて始めて感じる、パラオ随一の居心地の良いダイビングサービスだ。

マクロ限定!? パラオ1,400の魚達に会いたい。